

# 生命を守る政策を！

## 消防車・救急車 優先走行支援

## 学校・保育施設 通学路 危険箇所点検

奈良市議会議員

### 三橋 かずし

Mihashi Kazushi



### 「信号制御」で 消防車・救急車 支援

市議会での質問やその他の活動において、三橋は消防車や救急車の優先走行を支援する「現場急行支援システム(FAST)」を奈良市内でも整備するよう強く求めてきた。

これを受けて、奈良市消防局は、このシステムの導入に向けて奈良県警察と協議を開始し、実証に向けた準備を進めている。

このシステムは、人命救助などのための緊急車両を優先的に走行させるよう、信号表示を制御するもので、全国15都道府県で導入されている。総務省や警察庁などによれば、①目的的地までの時間短縮、②緊急走行による事故防止、③揺れの低減による傷病者の負担軽減、④救急隊員による観察環境の向上などの効果が確認されており、奈良市議会では平成30年9月に三橋が初めて取り上げていた。



市内では、交通量の多い大交差点や、信号を先頭に交通渋滞が発生している区間も存在し、また緊急走行中の救急車が赤信号交差点進入時に事故が発生するなど、迅速で安全な緊急車両の走行支援が課題である。奈良市における救急搬送件数は過去6年間で3千件も増加しており、平均搬送時間も全国水準より長い。奈良市内でこのシステムの導入が実現すれば、その意義は非常に大きい。

### 生命を守る政策 「消極姿勢」を追究

しかし、現場急行支援システムについて、これまで奈良市は、「全国15都道府県しか導入しておらず、今後も他自治体の導入状況を見守りたい」という姿勢で、実質的に取り組まない旨の答弁を繰り返していた。三橋が「生命を守る政策を考えるのに、他自治体を取り組んでいないから実施しないという姿勢は理解し難い」と再三にわたって追及してきた。

今回は指摘から3箇月でようやく動き出したが、生命を守る政策に消極的な奈良の行政の考え方は抜本的に改める必要があるだろう。

### ETCレーン通行を 救急車の高速道路利用

三橋の調査により、救急車が救急搬送で高速道路を利用する際に自動料金収受システム(ETC)レーン通行できていないことが明らかになり、市消防局に対して文書質問などで指摘し、早急な改善を求めた。ETCの普及率が向上した昨今の事情を踏まえれば、救命のために1分1秒を争う患者の搬送を担う救急車がETCレーン通行できていない救急体制は看過し難い。

三橋の指摘により、市消防局は、全ての救急車について改善の措置を講じることとした。

### 全国改善の契機に 報道でも取り上げ

救急車は道路交通法により緊急走行時は高速道路を無料で通行できることとされているが、ETCレーンでは緊急走行が通常走行かの判別ができないため、道路管理者発行の通行証を呈示するため有人の一般レーンを通行している。このような制度事情から、市消防局ではETC車載器を備えている車両でもETCレーンを通行できていなかったという。

同様の問題は全国的にも共通して存在していたことから、市消防局だけでなく、奈良県内全ての消防本部で改善が図られるよう、「消防長会議」の議題にも上り協議された。

また、このことはテレビや新聞報道でも大きく取り上げられ、広く注目されることとなり、奈良県内にとどまらず、全国的にも同様の問題の改善が図られる契機となった。

一般(有人)レーン → ETCレーン



発行元

## 奈良市議会議員 三橋 和史

## 奈良市政News

〈Vol.7〉平成31年春号

【現】奈良市議会議員(総務委員会)(政党:無所属)、奈良市監査委員

【生まれ】昭和63年(1988年)12月22日(30歳)

【学歴】奈良県立奈良高等学校 卒業 明治大学政治経済学部政治学科 卒業 【資格等】平成23年行政書士試験合格 他

【職歴】株式会社南都銀行総合職 奈良県庁行政職(災害対策、行政広報、税務等を担当)

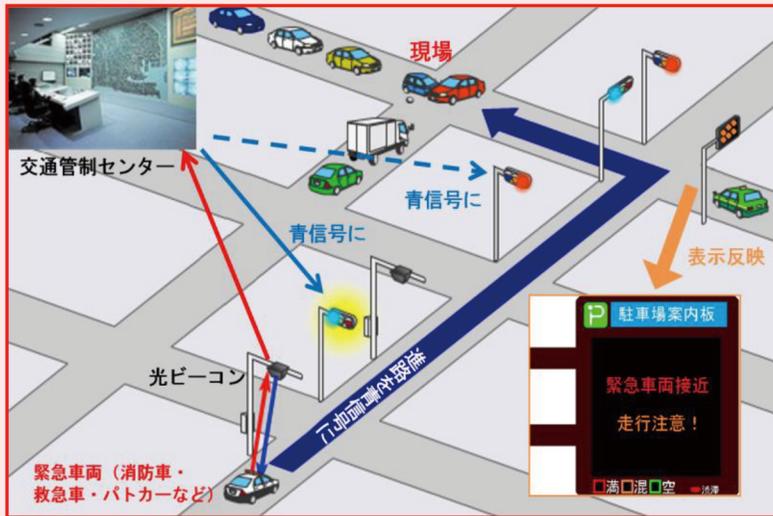
【連絡先】〒631-0842 奈良市菅原東二丁目11番1シャーマゾンN・T101号 E-mail: sanwakai.km@gmail.com

ホームページやTwitterなどでも日々の政務活動を詳しく紹介していますので、併せてご覧ください。

三橋 和史

検索

# 生命を守る施策 取組事例紹介



## ▶ 危険箇所対策事例 (保育所・公園前)

河川 (水路) に沿う道路で保育所や公園等に隣接する箇所について、車両を保護するガードレールが取り付けられているものの、その隙間から児童らがすり抜け落下するおそれがあり、**死亡事故に繋がる危険性**があることを指摘した。

市に対して財源措置方法の助言等を行った結果、対策として落下防止柵が設置された。



## ▲ 現場急行支援システム (表面前段参照) (FAST emergency vehicle preemption systems)

整備を図ることが明記されている国及び奈良県の交通安全計画に反して、奈良市だけでなく、県消防救急課もこの取組を放置してきた。

さらに、国家公安委員会・警察庁が整備を図る計画を具体的に示しているにもかかわらず、県消防救急課は、市消防局に対して、奈良県警察も消極的であると説明していることが発覚した。

## ▼ 救急車のETCレーン通行 (表面後段参照)

テレビや新聞でも報道 (画像は毎日放送より) 三橋の指摘により、全国的な課題として取り上げられている。



## ◀ 危険箇所対策事例 (右直事故が発生した交差点)

高架下にある信号パターンも複雑な交差点で、直進車と右折車の衝突による車両横転事故が発生した。偶然居合わせた三橋が救急要請をした事案である。当該箇所では過去に何度も右直事故が発生し、隣接する店先に車両が突っ込みそうになった事例もあったことが判明し、歩行者が巻き込まれる危険性が高いことなども指摘した。

奈良市と奈良県が管理する部分に跨る箇所であったが、対策としてガードレールが設置された。

これらの箇所以外にも危険な水路や現基準に適合しないブロック塀などが数多く存在しており、予算配分の優先順位を明確にし、計画的な対策を実施するよう求めている。

## ▶ 同報系防災行政無線の整備

奈良市では、放送内容を聴き取ることのできる範囲は極めて限定的で、人口の多い都市部 (概ね県庁以西の地域) だけみても可聴面積率 (整備率) は30%以下にとどまっており、国からも整備を促されている。

当初は「追加整備の計画はない」としていた奈良市は、三橋が再三にわたって「防災施策後回しの姿勢は改めるべき」と徹底追及してきたことにより、平成31年度 (2019年度) から数年以内のうちに再整備を完了させる方針を示すに至った。

また、これを補完する情報伝達手段として、危険区域付近においては、戸別受信機の普及や文字情報板の設置等の有効な施策の実施を推進していきたい。

